



海産物の高付加価値目指せ

松島 義幸 議員

産業創造戦略会議で検討を

問 西予市における第一次産業への依存度は非常に高いものとなっているが、その環境は厳しく、価格の低迷や高齢化により就業者数は年々減少しており、その歯止めが大きな課題となっている。第一次産業活性化の一環として、海産物の高付加価値化を目指した食品加工場の設置等による加工業の振興が必要であると思っているが、市長の考えを伺いたい。また、公共の産業関連施設の広域的な有効利用についても考えを伺いたい。

廃校の跡地活用を

市長 これから期待される産業は、「3K（健康・福祉・環境、観光）プラス、バイオとIT」とも言われている。水産業海産物をこれら3Kと融合させ開発することで、これから成長する産業となりうるものであると思っています。西予市においては、消費者のニーズを、的確かつ迅速につかみ、新しい水産加工品の開発で水産業の育成を図り、所得の向上と若年層等の雇用機会の創出を図るべく、産業創造戦略会議準備会を立ち上げ、検討を始めた段階であります。尚、公共の産業施設は、市民皆さんの施設なので大いに有効利用して頂きたい。



跡地利用を検討したい旧明浜西中学校

の考えを伺いたい。また、旧明浜町においての検討・答申や国庫支出金の返還関係についても伺いたい。

増進施設、スポーツレクレーション施設、交流施設」等の事業として盛り込んでおり、今後、この建設計画を基に必要性を勘案しながら、社会福祉や生涯学習の向上を図るため、検討していく考えであります。財産処分における国庫納付金については、転用する場合、福祉や教育施設などの公的目的で使用する場合は国庫補助金の返還が不要となるので、そのような事業を推進したいと考えています。

総合支所に裁量権を

三好 幸夫 議員

市民の声を集約する



問 西予市の地域活性化を考える時、総合支所の活用が必要である。当市の市域は広大であり、住民は肱川の各支流、宇

和海の各浦々に独自の文化をもつて集落を形成している。まさに集落連合体である。その活性化には地域を良く知る総合支所に所要の裁量権を与え、施策の推進を図る事が有効ではないかと考える。又、各庁舎の現状を見れば、総合支所の空室の活用に分庁を考えてはどうか。光ケーブルで全施設のネットワークが完成しており、市長の傍に居なければならぬ理由はないと考えるがどうなのか伺いたい。

助役

総合支所方式は、これまでと変わらぬサービス提供のため採用された。地域分権については、それが地域間格差を助長する懸念がある。しかし、地方分権や住民自治ともからむ事であり、市民の声を集約して組織のあり方についての結論を得たいと考えています。



地産池消への取組と対応は

坂本 隆重 議員

農業の振興に取り組みたい

問 農家では稲作の減反政策で米だけでは経営が成り立たない。自然環境と豊富な農地を生かした特産品を開発すべきではないか。輸入品は東南アジアの人工費の安い農産物が輸入され、国内の自給率は40%である。生産者が価格をつけれる付加価値の高い農産物を作る必要がある。食品の安全性と健康を重視した消費者のニーズを生産者に如何に反映させるかではないか。そのためには減農薬、有機栽培等にシフト替えし、地産地消の推進、具体的に例をあげると学校給食への対応等、取り組みと対応について伺いたい。

宇和病院に電子カルテを

問 現在の宇和病院は待ち時間が長い、待合所が狭い、看護師さんの対応が悪いと云われる。それは全て紙カルテにあると云っても過言ではないと思う。医療事務にかかる時間が長すぎるため



待合室がいつも混む宇和病院

システムの確立を目指すとした国の方針であり、当市では、海、山、里の気候風土の中で地域に適した多彩な産品や特産品を開発を支援する体制の整備と生産基盤の充実を図り、安心安全な新鮮良質食材の地産地消や、担い手の育成を図る事が重要と考えています。先般、産業創造戦略会議準備会を立ち上げたところであり、農業の振興に取り組んで参りたい。学校給食への対応についても考えていきたい。

である。又医療業界は他の業界に比べて、IT化が遅れている。電子カルテの優位性は医療の情報を患者や医療スタッフで共有できる。結果的に高いレベルの医療を提供できるようになる。電子カルテの普及や医療機関相互の連携システムが十分に構築されれば、宇和病院で治療を受けた患者が各診療所やさらに近くの

開業医のアドバイスを受けることが出来、医療業界の革命と云うべきではないか。所信を伺いたい。

事務長

電子カルテを導入する目的とその効果については、病院の医療の質を向上させ、つまり情報を共有することによって、診療精度の向上や安全医療の確立、患者のサービス向上させますが、巨額の費用がかかる面、将来の市立病院の方向性もあり、重要な検討課題であります。将来電子カルテを導入するために、職員で研究検討する勉強会を立ち上げ鋭意検討を進めて参りたいと考えています。

旧5町間複線化

問 市内の交通網を考える時、生活道路の整備が急がれるのは当然であるが、旧5町間の主要地点間の複線化を考えてゆくべきではないか。宇和明浜、野村城川、宇和三瓶は複線整備されており、明浜三瓶も今回知事陳情されたと聞く。しかし、宇和野村は期成同盟もあったが合併後消滅している。

市の主要地点間であり、ここで市として県に対して強く働きかけるべきではないか所信を伺いたい。

市長

知事へは三瓶明浜間の整備促進と高速道路の有効活用のための伊賀上野田バイパスの県道認定を要望したが、これらは必要不可欠と考える。宇和貝吹線は総延長31km、総事業費百5億円の壮大な計画であり、趣旨は理解できるが路線の緊急性、投資効果等の観点からどうであるか、今後検討していきたい。



複線化を期待する宇和貝吹線